

# 自分の考えや思いを英語で伝え合うことに喜びを感じる児童生徒の育成をめざして

越ヶ浜中の  
英語の取組

リーディングから得た知識を活用する（「読んだだけ」で終わらないために）

～単元のゴールに向かうため、教材の配置を自由にアレンジする～

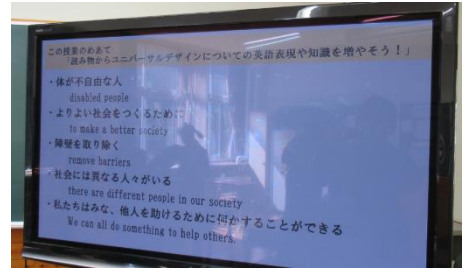
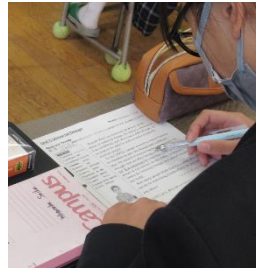
2年生は、Unit5「Universal Design」の学習をしています。単元のゴールは、下のよう設定しました。

「ユニバーサルデザイン」について、商品例などを提示しながら聞く人に分かりやすく Show and Tell を行うことができる。

今回は、単元のゴールに近づくために「読み物教材（Read and Think）をどう生かすか」ということに焦点を当ててみたいと思います。

結論から言えば、本ユニットでは「Read and Think」を、単元計画の3時間目から扱いました。読みの教材は、各 Unit において最後に配置されています。しかし、ユニットのテーマに関するたくさんの背景知識や語彙が出てくるページをただ読んで終わりにするのは勿体ない。しかも、たくさん出てきた単語は毎回消化しきれずに終わってしまう・・・英語の指導をしている先生たちの間でも、読み物教材の扱い方に悩んでいるという話はよく聞きます。

今回は、単元のゴールを先に設定した上で、このユニットで使用するすべての授業プリントを事前に作成して臨んでみました。大変ではありますが、指導計画がはっきりと固まると、その後の2～3週間、教材研究にかける時間はほとんど必要ありません。また、ゴールに到達するためのプリントや教材配列を事前に考えているため、単元途中の軌道修正もわずかな時間でできます。



本時（3時間目）は、「Read and Think②」の本文に設問と新出語句の注釈を設けたプリントを配付し、生徒達に解いてもらいました。生徒達は、初見で読むまとまった量の英文読解から、ユニバーサルデザインについての深い知識を学び取ります。設問の最後では、このトピックにおける汎用性が高い表現を教科書から拾い上げさせ、次の活動につなげるようにします。

前時（2時間目）では、「ユニバーサルデザインのことをよく知らない相手に、例を提示しながらユニバーサルデザインがどのようなものかを伝え、展示会に誘おう」という活動を仕組んでいました。（具体的には、ユニバーサルデザイン商品の写真を A4 で一覧にして配り、それを提示しながらユニバーサルデザインがどんなものなのかをパートナーに説明するという活動をしました。）

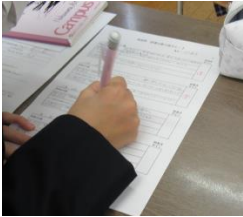
本時で読みの活動を終えた後、教科書の有効な表現を取り入れながら前時と同じ設定で説明をさせると、よりレベルの高い表現を使って説明しようとする姿が見られました。



具体的には、前時は「ユニバーサルデザインはすべての人のためのもの」「(写真を見せながら) これを使えば、簡単に～できる」といった比較的易しい英語での説明にとどまっていたのですが、今回は「よりよい社会のために (to make a better society)」「障壁を取り除くために (to remove barriers)」など、ユニバーサルデザインの説明としてふさわしい英語を追加して説明している生徒がいました。

Read and Think①をとばして、②を先に扱ったのも意図があります。Read and Think①の本文は、ユニバーサルデザインの「Show and Tell」のよい見本となっているのですが、最初にそれを目にしてしまうとそのひな形に頼り、自分で構成を考えなくなる恐れがあるため、最後に扱うように計画してい

ます。ユニバーサルデザインに関する背景知識や英語表現をしっかりと学んだ上で、Show and Tellに必要なスキルなどと一緒に、最後に生徒たちが気づけば理想です。



授業のふり返りから

- 習った単語をしっかりと使うことができた。
- 今日習った表現を1つだけ会話に入れることができた。
- safely の使い方が分かった。
- 学んだことを用いて、どんどん会話に入れたい。
- もっと分かりやすい説明ができるようになりたい。

教科書のユニットには登場人物やストーリーがあり、流れもあるため、明確な意図がなければ教科書通りに進んだ方が無難です。しかし、場合によっては今回のように教材の順番を入れ替えてみることも有効だと感じます。今回「Read and Think」を先に扱って感じたメリットを挙げてみます。

「読み物教材「Read and Think」を先に扱うメリット

- 1 トピックの背景知識を最初で得ることができるため、話す内容が深まる。
- 2 リーディングパートで出てきた多くの語彙を「話す」活動につなげることで、語彙や表現が定着しやすい。
- 3 読み物は、新出語句に日本語の注釈をつけ、テスト形式にして生徒に解かせることで、まとまりのある初見の英語に触れる機会になる。また、診断的な評価に用いることもできる。

ここに挙げた取組以外にも、単元の途中でタブレットの効果的活用(個別最適化ドリル)を試みたり、「Show and Tell」の前にプレゼンが上手になるための具体的なスキル指導も考えたりしています。

★今回事前に準備した単元の授業プリント(例) → 少し軌道修正する必要は出てきますが・・・

文法の理解度定着のために、タブレット型ドリルも活用します。

目的、場面、状況を設定した活動

ユニバーサルデザイン商品の一覧を裏面にプリントしています。

目的、場面、状況を設定した活動

問題と解かせることで、教師の説明は最小限に抑えます。

リーディングをした後も、必ずアウトプット活動を入れます。

Show and Tellは、実物がタブレットのスライド提示にします。

1対1でのShow and Tellにして、聞き手のやりとりの様子も評価する予定です。

単元目標を大まかなルーブリックで